



学校と家庭が連携して、道徳教育を推進していきたいと思います。
学校で行った道徳の授業についてお知らせいたします。家庭で話し合ってもらいたいことをもとに、お子様といろいろな話をして下さい。
また、保護者の皆様の経験にもとづく話もできればとてもよいと思います。
よろしくお願いいたします。

★資料名

言葉のおくりもの

★今回の道徳の授業のねらい

異性について理解し、互いに信頼しあって友情を深め、よりよい人間関係を築いていこうとする態度を育てる。

★お話のあらすじや内容について

すみ子との仲のよいところをたかしに見られ、からかわれたり、周りに言いふらされたりするのを嫌がる一郎は、すみ子をわざと避けようとします。小さなことにこだわらない明るい性格のすみ子は、たかしのリレーでの失敗を許し、一郎の誕生日には、「言葉のおくりもの」をします。子どもにとって信頼関係を築くための土台は友情です。純真な子どもの時期に利害関係のない純真な友情や男女の正しい友情の芽を育て、友情は性別を超えたものであることを感じることができるよう授業を進めました。

★児童のふり返り

- ◎よい友達であるためには、お互いに分かり合うことが大切だと思った。また、「親しき中にも礼儀あり」はとても大切だと思った。何かあってもすぐに怒らず、話し合ったり謝ったり相手とたくさん話すことを大切にしたい。
- ◎良い友達であるために、お互いに励ましあったり、謝ったりすることが大切だと思った。また、誰でも同じように接することは難しいし、仲が良い人だけ特別扱いするのもおかしいと思った。
- ◎中学生になると、今のクラスはバラバラになる。新しいクラスでも人それぞれに個性があるので、よく話を聞いて、友達になるようにしたい。

★家庭で話し合ってもらいたいこと

「誰にでも同じように接する」ということについて考えていきたいと思います。大人の私たちはできるでしょうか。よく考えてみると大人でも難しい話だと思います。もしかしたら大人になるにつれ、より難しくなるかもしれません。6年生の子どもたちはこれから中学、高校とさらに広いコミュニティの中に足を踏み入れます。そんな中でどのような人間関係を築いていくことが望ましいことなのか、親子で語り合ってみることはとてもよいことだと思います。大人にもそれぞれ人間関係で失敗したことなどあると思います。そういった体験談も含めて赤裸々に、本気で語り合ってみてはいかがでしょうか。

また、そろそろ異性に対する関心も高まってきます。異性間の在り方も基本的には同性のものと同じです。異性に対しても信頼をもとにした正しい理解と友情を育てたいものですね。